

## 当日の見どころ

### ≡ 琴高ねぶた・弘高ねぶたの運行 ≡

幻の「第36回四国こんぴら歌舞伎大芝居」の演目の一つである「隅田川続碁(すみだがわごにちのおもかげ)」を題材に「組ねぶた」を地元琴平高校の生徒と町職員有志が協同で製作し、運行します。また、本場弘前高校の生徒が制作した「組ねぶた」もともに運行します。

### ≡ 尽誠学園太鼓部による囃子演奏 ≡

運行当日は、旧来より弘前ねぶたの笛奏者と交流のあった尽誠学園の太鼓部の学生も囃子として参加します。  
日時:5月28日(土)19時~21時



### 津軽三味線 ライブ演奏

津軽三味線奏者 渋谷和生氏に弘前市からお越しいただき、演奏イベントを実施します。

日時 5/27(金)16時、28(土)10時・15時・18時  
場所 ①ことひら温泉 琴参間



### ≡ お囃子ライブ演奏 ≡

「弘前ねぶたまつり」及び本イベントでライブパフォーマンスを随時開催します。

日時 5/27(金)15時、28(土)10時・16時  
場所 ①ことひら温泉 琴参間



### ≡ 絵師によるねぶた絵制作実演・展示 ≡

ねぶた絵師 三浦呑龍氏による絵付けの実演イベントを実施し、制作したねぶた絵を下記の期間中、展示します。

日時 【実演】5/27(金)・28(土) 【展示】5/29(日)~6/3(金)  
場所 【実演・展示ともに】②ACTことひら



### ≡ ねぶた絵「暫」 in 旧金毘羅大芝居 ≡

歌舞伎十八番の一つ「暫(しばらく)」を題材に描かれた約5mのねぶた絵を展示します。

日時 5/27(金)~6/2(木)  
場所 ③旧金毘羅大芝居(通称:金丸座)

## 四国金毘羅ねぶた祭りとは?

令和2年に新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった「第36回四国こんぴら歌舞伎大芝居」を、青森県弘前市の国指定重要無形民俗文化財「弘前ねぶたまつり」とコラボさせることにより、復活・再現させます。第36回公演の演目の一つである「義賢最期」等を高さ約8m級のねぶたに新たに描き下ろし、琴平町内で夜間運行します。イベント期間中には、琴平町内に歌舞伎の「轆(のぼり)」や「金魚ねぶた」の展示や関連イベント等も実施します。



歌舞伎がねぶたに…!



演目:「義賢最期」

## 四国こんぴら歌舞伎大芝居とは?

「四国こんぴら歌舞伎大芝居」は、江戸時代(1835年)に建てられた現存最古の芝居小屋である国指定重要文化財「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で琴平の春の風物詩として毎年4月に開催されています。昭和60年の第1回目の公演から平成31年に第35回を迎えました。翌年、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となり、本年(令和4年)も見送りとなりました。



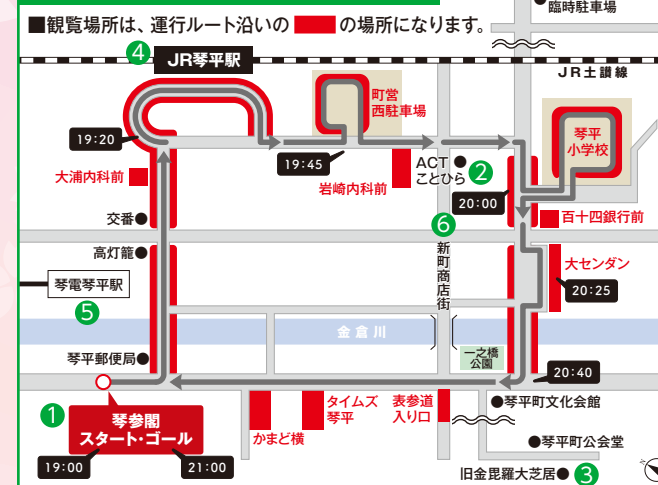
## 弘前ねぶたまつりとは? ~令和4年は300年祭~



青森県津軽地方の夏を飾る「弘前ねぶたまつり」は、毎年8月1日~7日に開催され、三国志や水滸伝などの武者絵等を題材とした大小約80台の勇壮華麗なねぶたが城下町弘前市を練り歩く夏まつりで、国から重要無形民俗文化財に指定されています。「弘前ねぶたまつり」の始まりは、昔、農民が夏の忙しい時期に襲ってくる眠気を追い払うため、睡魔を船や燈(とう)籠(ろう)などにのせ、川に流した「ねむり流し」という行事から発展し、祭りになったとされています。「ねぶた」が初めて記録に登場したのは、享保7年(1722)の「御国日記」であり、本年(令和4年)は、300年の記念の年となります。



## 運行ルート&イベントMAP



## 新型コロナウイルス感染症対策のお願い

下記の感染症対策にご協力をお願いいたします。ご協力いただけない場合は観覧をお断りする場合がございますので、ご了承ください。さらに詳細な感染症対策に関しては、ホームページに掲載しておりますので、当日お越しいただく前に必ずご確認くださいようお願いいたします。

◎左図のとおり複数の観覧場所(MAP上赤で表記)を設けております。いずれかの観覧場所で、一度限りのご観覧をお願いいたします。複数箇所でも複数回のご観覧はご遠慮ください。

◎各観覧場所にて皆様にご連絡先をご記入いただけます。(こちらのパンフレット裏面の連絡先記入欄に事前にご記入し、お持ちいただけますとスムーズです。)ご協力いただきました皆様には当イベント限定のオリジナルマスクをお渡しいたしますので、ご協力の証としてご着用をお願いいたします。一緒にイベントを盛り上げていただけますと幸いです。

当日は榎井小学校に臨時駐車場を設けておりますが、町内の駐車場には限りがあり、駐車できない可能性がありますので、公共交通機関での来町にご協力ください。